

2021年12月 館報

いずみ

和泉地区住民の動き R3.11.1 現在 (前月比)

人口: 444人 (±0) 男: 225人 (±0) 女: 219人 (±0)

世帯数: 226世帯 (±0)



発行日
令和3年11月30日
第178号
発行者
大野市朝日第25号5番地
和泉公民館
電話 0779-78-2110
FAX 0779-78-2821
メールアドレス
izumi-k@city.fukui-ono.lg.jp

人がつながり地域がつながる 住み続けたい結のまち

12月行事予定



日	曜日	行事
1	水	より処
2	木	
3	金	
4	土	
5	日	
6	月	
7	火	講座: 手芸教室②
8	水	健康プラスデー (測定) より処
9	木	講座: 冬の飾り物づくり教室
10	金	
11	土	
12	日	
13	月	
14	火	講座: 手芸教室③
15	水	より処
16	木	

日	曜日	行事
17	金	
18	土	
19	日	講座: そば打ち体験教室
20	月	講座: クリスマス会
21	火	地区区長会
22	水	ふるさとかるた地区予選 より処
23	木	講座: スマートフォンの使い方
24	金	
25	土	
26	日	
27	月	
28	火	
29	水	休館日
30	木	休館日
31	金	休館日

小学生ふるさと芸能発表会

11月23日(火)に学びの里めいりんで「結の故郷 小学生ふるさと芸能発表会」が開催されました。発表会は各地区に伝わる文化・芸能を次世代に継承し、世代間の交流を深めることを目的としています。

新型コロナウイルスの影響で、2年ぶりの開催となり、和泉、下庄、乾側、小山の4地区が伝統芸能を発表しました。

和泉地区からは和泉小学校の児童が参加し、おそろいの法被姿で穴馬昇龍太鼓を披露しました。大きな掛け声と篠笛の音色に合わせ、力強い太鼓の演奏に、多くの拍手が送られていました。



穴馬紙すきにチャレンジ (文化講座) 全5回

公民館では毎年、地域の伝統、ふるさとのよさを再確認し、次世代へ継承することを目的として「穴馬紙すきにチャレンジ」を開催しています。

11月11日(木)穴馬紙大すきの会の方を講師に迎え、和泉小5・6年生と参加者で、和紙の原料のコウゾを採取し、適当な長さに切り揃えました。

11月19日(金)にはコウゾの皮はぎを、11月26日(金)は灰汁づくりとノリウツギの内皮とりを行いました。児童たちは、地域に伝わる穴馬紙を作る工程に真剣に取り組んでいます。最終回の紙すきまでに、コウゾの繊維ほぐしなど、まだいくつもの工程があります。

紙すきは来年の2月を予定しています。興味のある方は、ぜひ参加してください。



和泉地域交流センター ホール展示のお知らせ

12月は「意外と知らない...ココがすごいぞ! 自衛隊」を展示します。ぜひご覧ください。

※館報をカラーでご覧になりたい方は大野市ホームページでご覧いただけます。また、カラー版をご希望の方は、公民館までお越し下さい。

和泉診療所だより

「お口ぼかん」

皆さん、お気づきでしょうか。近頃の若い世代に「お口ぼかん」が多いということ。どういわけか子供をはじめ、若者の口元が緩んでいます。僕等、比較的上の世代は、親から

「しっかり口を閉じなさい」とよく言われたものです。それは臍の一環であるのと同時に、風邪などの感染症予防にも大いに役立っていたはず。今どきの若い親御さんたちは「お口が開いているよ」とお子さんたちに注意しないのでしょうか。

原因は色々あるでしょう。若い世代が上の世代よりも軟食を好み、飲み込みも下手になり、口周りの筋肉の発達も不十分のようです。

ところで、この二年にもなるコロナ感染症禍では、マスク生活を余儀なくされています。このマスクが曲者なのです。賢明な皆さんなら、もうすでにお分かりでしょう。マスクで「お口ぼかん」の緩んだ口元が見えなくなっているのです。

マスク生活でのストレス増加、唾液量の減少、間食の増加、口呼吸等により、口の中の環境は劣化しています。特に、歯周病のリスクが増加し、それが低年齢化しているのです。

皆さん、今一度、ご自身をはじめ若い世代の口周りに注意を向けてください。

文責 福島一之

※ 受診の際は必ずマスクをつけてください。

※ 診療所を受診の際には、保険証をお持ちください。和泉診療所Tel 78-2650

休診のお知らせ

内科: 毎週水曜日

歯科: 毎週木・金曜日

★年末の診療は28日(火)までです。お正月中にお薬がなくなるよう計画的に受診してください。